

第1回 新たな都市像検討委員会

日時：令和5年4月26日（水） 14：00～
会場：金沢市役所第一本庁舎 全員協議会室

第1回 新たな都市像検討委員会

日時：令和5年4月26日（水） 14：00～15：00

会場：金沢市役所第一本庁舎 全員協議会室

次 第

- 1 開 会
- 2 市長挨拶
- 3 委員長の選任
- 4 議 題
10年後の金沢に向けた意見交換
- 5 閉 会

【資料】

資料1 意見要旨取りまとめ（委員提出資料）

意見要旨取りまとめ

(委員提出資料)

安宅委員

分野	意見要旨
仕事づくり (商業振興)	兼六園や金沢城、21 美などの市内中心の観光スポットが充実する一方、その周辺を固める 商業ゾーンの老朽化 が著しく、特に 片町商店街の再開発、日銀跡地の活用など中心商業地の充実 が求められる。
仕事づくり (新産業振興)	金沢は文化や教育のレベルが高く、東京との時間距離も近く、 20代、30代の起業を目指す若者の移住地、生活地として最適 であると思うので、その 対応を充実 することが重要。

出原委員

分野	意見要旨
仕事づくり (働き方・ デジタル化)	子育て、高齢者介護等を抱える働き世代や、 様々な障害のある人達も、 オンラインやアバターロボット等を 活用したテレワークを推進 する。 仕事のDX化を加速し、 従来の働き方にとらわれない、 多様な働き方を認め実現 する。
仕事づくり (新産業創出・ 高度情報化・ 企業立地)	若い優秀な人材が集まる市にする。 特に、 IT等先端技術を有する人材が、 働きたいと思う職場(仕事)を創る。 産学官金の連携を推進 し、共同研究を行い就職へつなげる。
暮らしづくり 魅力づくり 都市づくり	働く場所と豊かな文化体験ができる生活環境が 一体となったコンパクトシティ。 仕事場、余暇を楽しめる場、住まいが近くにあり、 ライフワークバランスが実現できる街にする。

桶川委員①

分野	意見要旨
暮らしづくり (社会福祉)	<p>(ITの活用)</p> <p>人口減少かつ超高齢社会を迎え、様々な生活課題の発生が予想される。 地域生活課題を的確に把握し解決を図るため、ITを活用したシステム「デジタル福祉・金沢」を構築する。</p>
暮らしづくり (社会福祉 安全・安心)	<p>(ITの活用)</p> <p>「デジタル福祉・金沢」のメイン機能として、あらゆる情報を電子地図化した地理情報システムを構築し、 各地域の特性に応じたマルチスケールでの地域福祉を推進する。</p>
暮らしづくり (社会福祉)	<p>(ITの活用)</p> <p>高齢者や障害のある人等が日常の生活で支えが必要な時、スマホで発信すると近くにいる人が受信し支えるなど、 IT活用による支え合いのまちづくりを推進する。</p>

桶川委員②

分野	意見要旨
暮らしづくり (社会福祉 地域コミュニティ)	(孤立防止・見守り体制強化) 高齢化の進展により、 一人暮らしの高齢者の孤立や認知症の人が増加する。 民生委員だけでなく、町会ぐるみや企業など あらゆる人が見守り・声かけを行う社会を築く。
暮らしづくり (社会福祉)	(SDGSの普及と福祉活動の拡大) 地域、学校、職場で SDGs を普及し、 福祉への関心と活動に繋げる。
暮らしづくり (社会福祉)	(福祉教育による住民力の向上) 全世代対象の「福祉教育」 に取り組み、 子供達の健全育成を進めるとともに、 身近な地域課題を知り、課題解決の方法を考え、 解決のために行動する力を養い、共に生きる力を育む。

桶川委員③

分野	意見要旨
人づくり (社会福祉)	<p>(子育て支援) 政府が未来への投資として 子育て支援・少子化対策を重点課題とするなか、 移住・定住促進政策としても、 子育てしやすい環境づくりと子育て支援が 都市間競争となっている。 戦略的に子育て支援を行うことが重要。</p>

久保委員

分野	意見要旨
魅力づくり	<p>＜子供の文化体験拡充＞</p> <p>金沢の品格は、 伝統文化とそれを担う人の影響を受けている。 若い世代が伝統文化に触れる機会を拡充するため、 例えば、2月に金沢市と石川県芸術文化協会が実施している 「子ども文化体験ワールド」を春と秋の2回開催し、 街の品格を高めながら、伝統文化の担い手育成にもつなげる。</p>
魅力づくり	<p>＜文化観光の推進＞</p> <p>金沢には、優れた伝統文化や食文化がある。 中でも、総合芸術といわれる茶道は、 道具や菓子など、必要な物がすべて当地で賄える高い質を誇る。 公共ホールや市内に点在する茶室など、 用途に応じた施設を活用して、 事業、イベントを恒常的に開催し、文化観光を推進する。</p>

諏訪委員

分野	意見要旨
仕事づくり	<p>現在の産業変革期において 企業へのDX支援はもちろんのことですが、 新産業への転換を図り成長分野への参入支援も必要になると思います。</p> <p>また、起業支援や企業誘致を行い、 金沢らしい強みを生かした仕事を創出していく必要があると思います。</p>
仕事づくり	<p>学生への教育が必要だと思しますので、 在学中に企業経営者や幹部のキャリア形成の講義を設けた方が良いと思います。</p> <p>また、成長分野の企業誘致を積極的に行い、求職者に求められてるスキルの向上を支援する必要があると思います。</p>

竹上委員

分野	意見要旨
人づくり (人材育成)	<p>その道の専門家（市でも有している人材バンクも）をもっと活用して、大学とは異なる少人数の塾（各分野）を拓く。 （20代の学生、若者、高校生等）</p>
人づくり (学校教育)	<p>今も行っている事であるが、地域の歴史・文化について学ぶ時間をある程度増やす。 （小学校のみならず中学校においても）</p>

田邊委員

分野	意見要旨
人づくり (学校教育 生涯学習 人材育成)	＜知財創造、価値創造の学び文化の開発と発信＞ SDGs 実践などの行動変容に向けた 学びの展開や斬新な着眼点の探究
人づくり (幼児教育 学校教育 生涯学習 人材育成)	＜学校や地域での学術、文化、アスリートの 本物に学ぶプラットフォーム＞ 行政×学校×地域×NPO×企業×教育ベンチャーを 推進する学び支援コーディネーター
人づくり (子育て環境 幼児教育 学校教育)	＜教育×地域福祉との連携拡張＞ ワンストップ子育て支援、オールタナティブ^(※)な学びの場
人づくり (学生・若者)	社会参画（子ども議会、若者議会）の多様なチャンネルと拡張

※オールタナティブ：既存・主流のものに代わるの意

谷口委員①

分野	意見要旨
魅力づくり	<p>＜「創造的な循環スパイラル」 人が人を呼び、創造が創造を生み、文化が文化を作る街＞</p> <ul style="list-style-type: none">・若い世代（30歳以下）に金沢の文化芸術に対して愛着を持ってもらうための取組を実施。・メタバース等を活用し、施策が世界中に認知され、興味を持つ人に十分なアプローチができ、ずっと金沢にいたくなるような横断的プラットフォームの構築を検討。
暮らしづくり	<p>＜誰もがつながりを感じられる安心できる居場所のあるまち＞</p> <p>ボランティア同士の結びつきの強化と ボランティアの活動にスポットライトを当てて 活動を周知するためのイベントを開催、仕組みの検討</p>

谷口委員②

分野	意見要旨
人づくり	<p>＜金沢の全ての人の心に“種火”を ～楽しく学びあい・繋がりあう金沢～＞</p> <ul style="list-style-type: none">・ 教育イベント、繋がりあえるイベントの企画・開催や既存事業の周知。・ 「ユースセンター」の周知や先行事例の調査。・ 民間協働の授業作成の検討。・ 既存の産前産後ケア活動の継続・周知の支援。
仕事づくり	<p>＜何かをやりたい人が、やりたいと思った時に、 やりたいことをやれる環境が整っている社会＞</p> <ul style="list-style-type: none">・ 金沢の30代以下の世代で面白い活動をしている人物の取材・動画発信を通じた一覧化。・ イベント実施による上記人物とのマッチングを実施。

谷口委員③

分野	意見要旨
都市づくり	<p>＜“ウォーカブル” なまち金沢 ～人間中心の都市空間～＞ 学生も、妊婦も、シニアも。地元民も、移住者も、観光客も。 松葉杖でも、車いすでも。 公共交通の効率化とパブリックスペースの充実で、 どんな人も快適で楽しく。そして「出かけたくなる街」に！</p>
その他 (パブリック・ ヒアリング)	<p>＜熱量ある市民のアイデアが実現し、 少しずつ着実に変化する街＞ パブリック・ヒアリング^(※)の方法を より具体的、かつ繋がる形へと変えることで、 点ではなく線の改善へ。</p>

※パブリック・ヒアリング：一般に広く意見を聞く機会を設けること

道地委員①

分野	意見要旨
都市づくり (市街地活性化)	一定期間、地域に滞在する 学生や若い世帯が愛着を感じ定住につなげる住まいの提供が重要。 そのための 地域コミュニティとのつながりをもつアイデアも必要。
都市づくり (市街地活性化)	金沢市がこれまで取り組んできた、 まちなかで滞在でき憩える空き空間のさらなる創出が必要。 その空きは 有事の重要な空間でもある。 まちなかの密と空きのバランスが重要。
都市づくり (住環境整備)	コミュニティとのつながりを感じる居住形態、 例えば空き店舗や商店街、また遊休地の利活用や、 地域の魅力を持つ町家やシェアハウス等の建築による 職住遊一体型の都心居住促進 により景観の改善にも効果がある。
都市づくり (住環境整備)	上記の都心居住促進のため 民間と共同の市場の活性化が必要。

道地委員②

分野	意見要旨
都市づくり (住環境整備 公共交通都市)	中心市街地定住促進の施策（街の魅力と価格）とともに中心市街地に人を呼び込む交通施策が必要。
都市づくり (道路等インフラ整備)	まちなかへの車の乗り入れ規制や整備とともに 公共交通ルートの見直しや整備、駐輪場の整備は早急に必要 （公園が駐輪場化している）。
都市づくり (移住・定住)	石川県は高等教育機関が集積し 大学等進学時に県外からの転入が多い。 しかし、 就職を機に県外からの学生だけでなく県内の学生も転出する学生が多いことが課題 である。
都市づくり (移住・定住)	県内の学生にとっては、 感染症の影響で県外（首都圏）へ転出するといった考えが弱まっている傾向にあり、 新しい働き方に対応する企業へのサポートを強化する必要がある。

中谷委員①

分野	意見要旨
魅力づくり	<p>観光客向けの魅力はとて多いまちだと思う。 一方でまちなかに学生を呼び戻したいという考えや政策はあるが、その政策が学生に合っているようには感じない。 文化の面では、全国的にも残っている 伝統文化の多いまちだと認識しているため、 学生に理解してもらえたら、今後の文化の保存であったり、学生にとってもいい影響となると考える。</p>
人づくり	<p>教育の面では「いしかわシティカレッジ」(※)など 自分の学びたい事を学べる環境にあると感じる。 また、学び以外に自分で何かを立ち上げる際にも学生へのサポートが充実していると思う。 しかし、折角の良い制度なのだから、 もう少し認知度を向上させられたらとも思う。</p>

※「いしかわシティカレッジ」：石川県内の高等教育機関(大学・短期大学・高等専門学校)が相互に連携・協力して、高等教育の充実と魅力の向上を図るとともに、県民にその機能を提供しながら地域との連携・交流の場となることを目指して設置。単位互換事業として、参加高等教育機関がいしかわシティカレッジにおいて科目を開講し、そこで習得した授業科目の単位が自大学の単位として修得したものと認定される。

中谷委員②

分野	意見要旨
都市づくり	<p>交通の面だと、バスの利便性が低いと感じる。 乗り合わせや本数、方面が多いことで複雑化している。 これが一つハードルとなり、 まちなかにくる学生の数が減っていると考えられる。 金沢駅の他にバスセンターのような 一度バスを整理する場所があってもよいと思う。</p>

能木場委員

分野	意見要旨
人づくり (子育て環境)	地域の諸団体と協力し、 地域コミュニティの一員として、子育てに参加できたらと思う。
人づくり (子育て環境)	地域のおせっかいおばさんとして、 金沢に定住する人口増加に協力していきたい。
人づくり (人材育成)	若い人材が定着し、金沢の良いところを理解し、 金沢で子育てしながら地元の企業の戦力になってほしい。

八田委員①

分野	意見要旨
魅力づくり (食文化)	<p>＜「美食の街金沢」のブランド化＞ 金沢はミシュランの星付きレストランの数が、 世界で14番目に多い都市であり、 新鮮な食材を活かす確かな料理技術、器や作法、しつらえ、 そしてその総合芸術たる料亭があり、 同時に洋食も含めて高度で多様な料理が提供できる。 世界の美食の都を目指して、 「美食のまち金沢」をブランディングする。</p>
魅力づくり (歴史・伝統)	<p>＜「サムライのまち金沢」の世界への発信＞ 世界に発信していく個性として、城を中心とした歴史的な街並み、 藩政期から続く文化伝統の基底にあるのが、侍文化。 日本文化を満喫できる都市であるが、 特にサムライのまちを体感できるコンテンツを充実させ、 京都との差別化を計り、個性を明確にしていく。 城、武家屋敷、能、芸妓、茶道、華道、弓道、剣道、工芸、 刀剣等</p>

八田委員②

分野	意見要旨
魅力づくり (観光振興)	<p>＜高付加価値層旅行者層が好んで滞在する 宿泊施設の充実強化＞</p> <p>観光庁の高付加価値化モデル地区に選定されている中、 大きな課題は高付加価値旅行者（※）が滞在できる宿泊施設が量、質ともに不足していること。</p> <p>町家や古民家のオーベルジュ化をはじめ、高付加価値層を受け入れることができるホテルを誘致し、都市のレベルを高める。</p>
魅力づくり (観光振興)	<p>＜広域観光のハブ都市化の推進＞</p> <p>地域活力の向上には交流人口の増加は不可欠。 日本が少子高齢化する中、 観光産業の活力維持には、インバウンドの獲得は必須。</p> <p>広域で呼び込み、滞在期間を長くし、消費単価を上げていく。 新幹線の敦賀開業もあり、金沢駅を北陸観光のハブとする。</p>

※高付加価値旅行者：JNTOでは、「訪日旅行1回あたりの総消費額が1人100万円以上の旅行者」と定義

松永委員

分野	意見要旨
都市づくり	<p>人口45万人余の中核都市として、 地域内循環型エコシステムの構築を目的とするまちづくりの政策（市民生活・環境視点）と、グローバル都市間連携を目的とするまちづくりの政策（産業・観光含む）の両面での整理が必要と思料。</p>
都市づくり (都市構造・ インフラ)	<p>豊富な歴史的・文化的資源を有し 観光客が集中する金沢駅東側の中心市街地のあり方（市民生活と観光需要との共存）と、 新たな産業集積と住機能の集積を図る金沢駅西側のあり方では、異なる視点でのインフラ整備（新たな視点によるものも含む。）が必要と思料。</p>

眞鍋委員

分野	意見要旨
暮らしづくり (地域コミュニティ)	これまでの金沢方式の良いところを継承しながら見直すべきところは見直し、 住民自治の持続可能性を向上させるような新たなしくみ「金沢方式2.0」を提案します。

矢ヶ崎委員

分野	意見要旨
魅力づくり (観光振興)	全ての人々に開かれている（ユニバーサルな受入環境）が、 実際には 教養豊かな世界の人々が憧れ滞在する歴史・文化都市。
魅力づくり (観光振興)	若者を惹きつけ、起業が盛んで、他産業にも貢献する観光産業。

山崎委員

分野	意見要旨
魅力づくり 仕事づくり	<p>従来の文化芸術組織に対する支援に加えて、 個人事業者としての芸術家等 （美術・工芸・デザイン・音楽・演劇・古典芸能等の担い手）の 活動基盤（ソフト・ハードとも）に対する環境整備と 支援の充実が求められている。</p>
魅力づくり 人づくり	<p>新キャンパスに移転する金沢美大が、新たな環境のもとで 教育、研究、社会貢献等の向上に努めることはもとより、 学外からの幅広い意見を踏まえ、 10年後の金沢、更にその先を見据えた 大学のあり方を構想する必要がある。</p>

和田委員

分野	意見要旨
学術	<p>2021年10月に、大学コンソーシアム石川が「金沢文化・学術研究開発都市未来構想」を公表した。そこでは、学術研究機関の集積を中心として、日本海側最大級のサイエンスシティを目指すことを掲げている。</p> <p>こうした動きも踏まえ、金沢市の今後のまちづくりにおいては、歴史・文化・学術・医療と最先端研究を融合させ、都市全体がイノベーションの基盤となり、文化・学術の発展を実証していく方向性が考えられるのではないか。</p>

中川委員①

分野	意見要旨
暮らしづくり	地区によつての課題の解決のため、行政が主導する形で、目的をしっかりと「まちづくり協議会」や「まちづくり会社」を設立し、 住民、行政さらに民間企業等が協力した組織が必要。
暮らしづくり	まちづくりは町会の経験と共に「新たな知恵」が必要である。 本市の周辺には多くの高等教育機関があるので、 地域の問題解決のために学生さんの知恵を借りる。 また、学生の側からも生きた教材として地域に学ぶ機会として、 行政と一緒に活動する場をつくる。
暮らしづくり (安全・安心)	地域防災力の強化 自主防災力の強化と向上、防災士の活用、防災情報の広報のあり方、避難誘導などを 目に見える形で常時情報伝達の必要性

中川委員②

分野	意見要旨
暮らしづくり (地域コミュニティ)	<p>中心部や中山間部における地域リーダーの成手不足 金沢方式への危惧(地域主導、ボランティア、地元負担) 特に、中心部住民の高齢化については、 独居老人対策としての地域による見守りや、 お世話など地域のボランティア力が不可欠であるが、 民生委員によるサポートも人員不足になっている。 民生委員の定年の見直し、あるいはサポート人員の配置。</p>
暮らしづくり (地域コミュニティ)	<p>中山間地における人口減少は、 地域の様々な場面において活動の機会を失いつつある。 山側環状線と海側環状線を4車線化し回遊性を向上させ、 同時に子育て施策や移住者に対する支援策の充実を図る。</p>
暮らしづくり (地域コミュニティ)	<p>市街化調整区域にあっては、 地域の高齢化率も勘案した見直しが必要。 中山間地域に移住者が住める区域を作り、 定住促進とともに、誰もが安全で安心して暮らせるまちづくり。</p>

中川委員③

分野	意見要旨
都市づくり	<p>空き家の増加（危険空家やごみ屋敷対策）対策として 民間の事柄とするのではなく、 解決のための仕組みづくりを構築。 (例としては田辺市の空き家対策)</p>
都市づくり	<p>青空駐車場低未利用地の住宅転用を図ることにより、 住民数の増加を目指す。 まずは、モデル事業など。 また、ミニ区画整理事業も進める。</p>
その他 (基本的視点)	<p>10年後の金沢を考えるにあたって、 人口減少の傾向は、一層顕著になってきていることから、 ある程度、人口減少をストレートに捉えて 「人口ボーナスから明らかに人口オーナスの時代」 であることを、まず明確化する。</p>

※人口ボーナス：生産年齢人口（15～64歳）が、それ以外の従属人口を上回る、もしくは増加し続けている状態を指す。
人口オーナス：生産年齢人口が、従属人口に比べて少ない状態を指す。「オーナス」は「負担・重荷」を意味し、
従属人口が生産年齢人口を超え、人口構成が経済にとって負担となっている状態。